

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	広島文教女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ヒロシマブンキョウジョシダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中国・四国地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	人間科学部
	担当教職員名・役職	講師 小原 寿美
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	10
	受入企業等数	7
	受入企業等名	(公財)可部公民館, (公財)広島平和文化センター, (株)近畿日本ツーリスト(一社)宮島観光協会, (株)ホテルグランヴィア広島, ユウベル(株)(公財)広島文化財団 広島城
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学インターンシップは、企業等において実際の就業体験を伴う活動を行っている。企業等の実際の窓口業務に携わり、宮島など観光拠点において、広島を訪れる外国人旅行者等への英語での対応を体験したり、旅行業界では団体旅行の企画を立て、企業の方から直接フィードバックを受けたりしている。地域の公民館では、企画やイベントの運営を行うとともに、地域住民とのふれあいの場を体験している。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		2年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		本学インターンシップは、企業等において実際の就業体験を伴う活動を行うことによって「社会・人間・仕事・環境」について総合的に考えるための視点を養うものである。職業人の生の声を聴き、刻々と変化する現場の状況を肌で感じる体験によって、教室内の授業では得られない多くの学びを得ることができる。低学年次に設定することで、実習はもとより事前事後学習によって、その後の大学での学びを深化させることを目的とする。
3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	社会人としてのビジネスマナーや電話のかけ方、事前訪問のアポイントメントの取り方などについて、教科書を用いた集合事前学習を行っている。又、守秘義務の遵守については誓約書を作成し、企業に提出している。複数回の個別面談によって実習目標の明確化を図るとともに教育的効果を上げるために実習目標に応じた仮説を立て、実習中に検証している。日報、実習報告書の書き方、企業への事前訪問も必須のプログラムとしている。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習直後、企業へ礼状を送付、併せて大学へ①礼状のコピー、②日報、③実習報告書、④仮説検証シート(実習中に検証した仮説を、事後にシートにまとめたもの)、⑤自己評価表の提出を求めている。それらをもとに、後期に振り返り面談を行っている。また、企業担当者を招いて、全員がスライドを作成し実習報告会で発表を行う。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	全ての学生の実習先に対して、教員による実習巡回とモニタリングを行っている。加えて、実習先企業担当者から大学への評価票の提出、及び自己評価表記入提出による振り返りとモニタリングを行っている。個々の学生の実習に関する振り返り(evaluation)とともに、インターンシッププログラム全体に対する振り返り(assessment)のために、各企業より本学インターンシッププログラム全体に対する評価をいただき、次年度以降の改善に役立てている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習の事前事後での意識・行動の変容について検証するため、アンケートを行っている。また、振り返りを具体的にを行い、実習以後の大学生活に生かすために、事前事後の個別面談を行っている。また、学科教員とのコミュニケーションをとることによって、事後の学びや学外活動の様子の変容について確認を行っている。好事例について学内研修会およびキャリア教育等で共有している。今後の新たな評価基準について、現在整備中である。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	3~4日
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	5日以上の実習日程で依頼しているが、受け入れ企業または年度によっては3~4日の実習となるケースもある。実習日が5日に満たない場合、事前・事後研修、事前訪問、個別面談を合わせて、5日とカウントしている。学内事前研修、事前訪問、事後の報告会や面談等、事前事後研修は充実しており、十分に5日以上とカウントできるプログラムになっている。企業への実習日数増加依頼もを行っている。
6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい	

要素⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前個別指導によって立てた実習目標に沿った仮説を実習中に検証するため、企業の担当者を事前訪問し、検証許可をとったうえで実習中に臨んでいる。そのため、学生の立てた実習目標達成に企業の担当者も何らかの形で関わることになる。仮説検証を含め、受け入れ担当者は学生の評価を行うことになっており、学生の学びや気づきを多様化させる一助となっている。受け入れ担当者による事後報告会参加とフィードバックもある。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	小原寿美(2018)「広島文教女子大学における短期インターンシップの実践と検証：仮説検証型インターンシップの試み」広島文教女子大学高等教育研究 4 pp.1-18。「別添資料として別途提出済み」
問い合わせ先	大学等名	広島文教女子大学
	担当部署名	学園統括部 就職課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	田口 礼子
	電話番号	082-814-9998
	メールアドレス	shushoku@h-bunkyo.ac.jp